

Smart Archi 照明器具用吊具

FYY80105(単体・連結端用電源線付)

FYY80106(単体・連結部用)

FYY80107(単体・連結端用通電穴付)

●器具の施工には電気工事士の資格が必要です。施工は必ず工事店に依頼してください。

施工説明

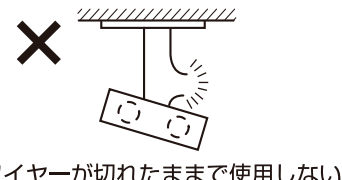
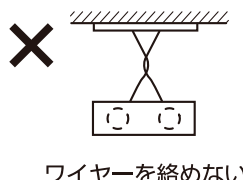
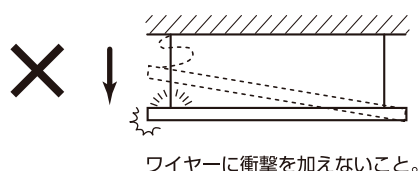
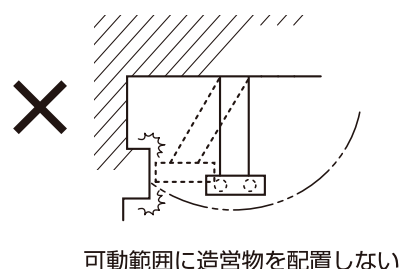
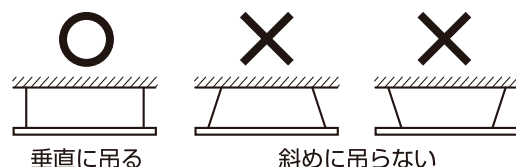
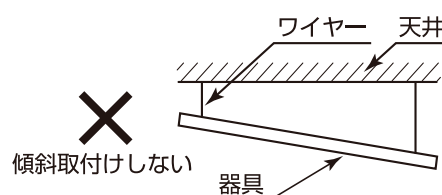
工事店様へ、この説明書は保守のためお客様に必ずお渡ししてください。

安全に関するご注意



警告

- 施工は、施工説明にしたがい確実に行う。
施工に不備があると、落下・感電・火災の原因となります。
- 吊具を改造しない。落下・感電・火災の原因となります。
- 傾斜天井・壁面への取付けはしない。落下の原因となります。
- 適合灯具以外に使用しない。落下の原因となります。
(灯具の取扱説明書または、カタログにて確かめる。)
- 器具を傾斜させて取付けしない。落下の原因となります。
- 電源線(同梱)の容量(7A)を超える電流を流さない。
過熱による火災の原因となります。
- 吊具の取付ピッチは、灯具本体の吊具取付ピッチと合わせ、垂直に吊る。
不備があると、灯具の傾き・落下の原因となります。
- 器具可動半径内に造営物等を配置しない。
不備があると、落下の原因となります。
- 開放廊下等、風の強い所では使用しない。落下の原因となります。
- 素線の切れたワイヤー、変形または折れ癖のついたワイヤーは使用しない。
そのまま使用すると、落下の原因となります。
- ワイヤーが絡んだ状態で使用しない。落下の原因となります。
- ワイヤーが切れたままで使用しない。落下の原因となります。
必ず吊具を交換してください。
- ワイヤーに衝撃を加えない。落下の原因となります。
ワイヤー素線切れ、変形等の異常がある場合は、吊具を交換してください。
- 電源線の接続後の絶縁は確実にを行う。
感電・火災の原因となります。
- 単線とより線の直接接続(ねじり接続等)はしない。必ず専用工具で圧着すること。
火災の原因となります。



注意

- 直射日光の当たる場所、湿気の多い場所、振動の強い場所、雨水のかかる場所、腐食性ガスの発生する場所では使用しないでください。落下・感電・火災の原因となります。



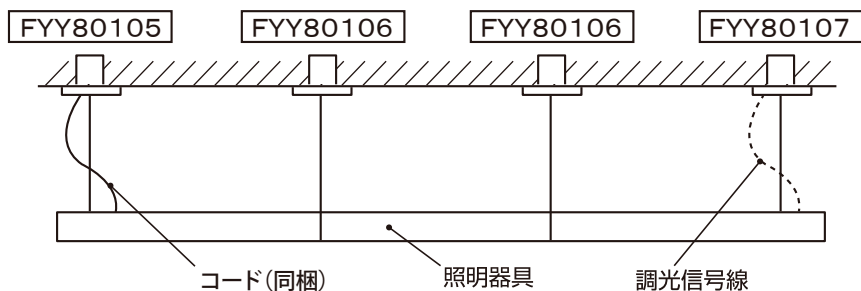
警告

施工は、施工説明書にしたがい確実に行う。施工に不備があると、落下。感電・火災の原因となります

1. 取付け前の確認

- 器具質量（最大12kgまで）に十分に耐えるよう、ボルト取付部の強度を確保する。
（取付ボルトは、W3/8またはM10を使用する。）
不備があると、器具落下の原因となります。
- 電源線の引込みは端の吊具から行ってください。

<組合せ例>



器具の仕様

	FYY80105	FYY80106	FYY80107
カバー	通電穴付	通電穴無し	通電穴付
コード	同梱	—	—
アース線	有	—	—
棒端子	同梱	—	—
プッシング	有	—	有

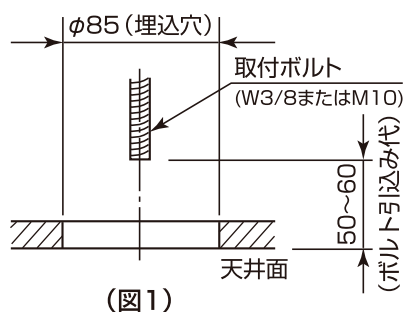
※ 電源線は、器具内送り配線とします。（最大7Aまで）

※コード(同梱) の容量7Aを超えて 使用する場合は、予め天井裏で分岐配線を行ってください。

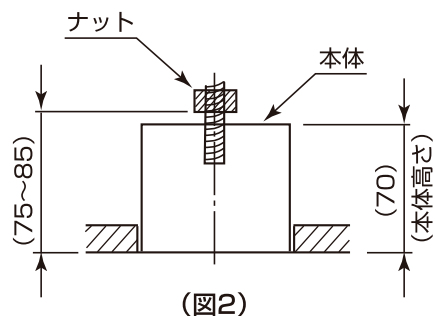
不備があると、感電・過熱による火災の原因となります。

2. 埋込穴の開孔

- 埋込穴、取付ボルトを右図のように用意しておく。
（図1参照）
尚、地震等で本体が不意に浮き上がることを防止するため、ナットをあたりとして取付けしておくことをお勧めします。（図2）



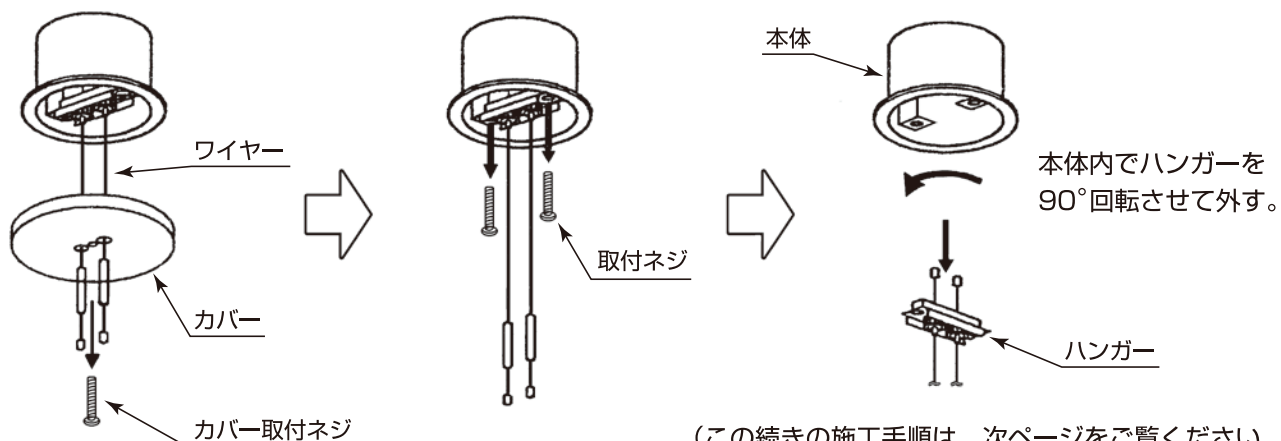
(図1)



(図2)

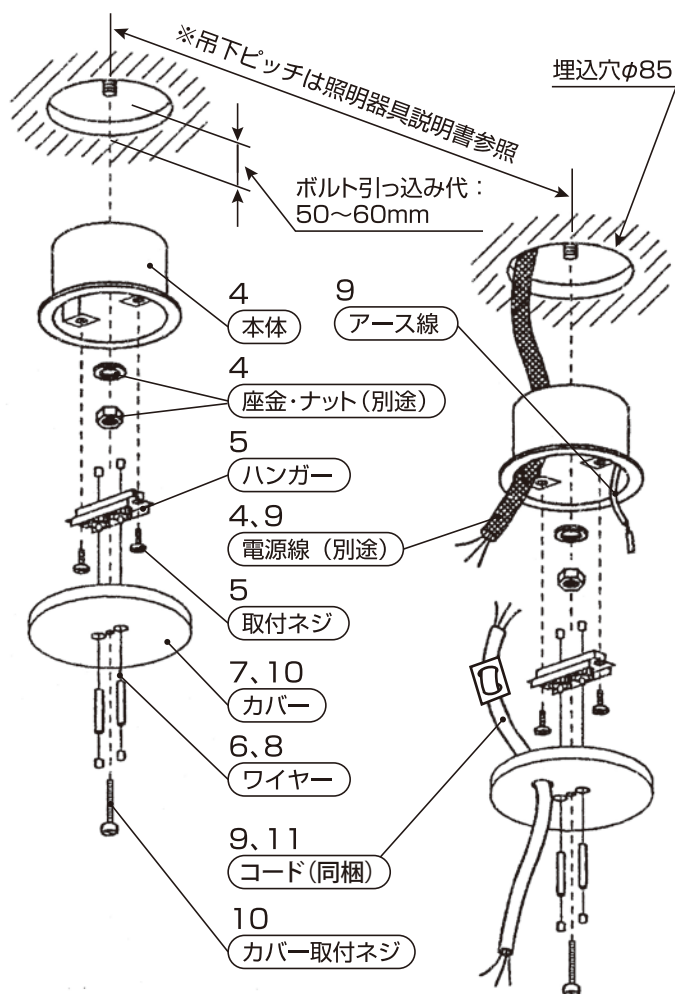
3. カバー、ハンガーの取外し

- 開梱後、本体を取り出し、ワイヤーを束ねているビニタイを外す。
ワイヤーの跳ねにご注意ください。
- カバー、ハンガーを取り外す。



（この続きの施工手順は、次ページをご覧ください。）

各部のなまえと取付方法 (続き)



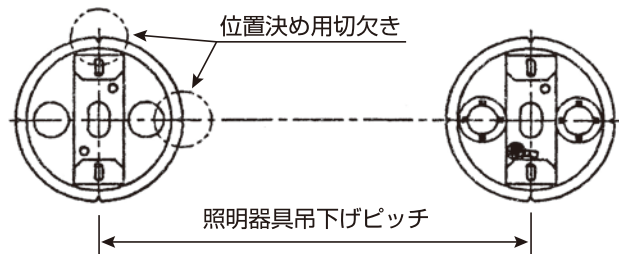
4. 本体の取付け

- 電源線 (別途)、アース線 (別途) を本体の電源穴から引込んでおく。

本体背面図



- 本体をボルトに仮固定し、取付方向を調整する。

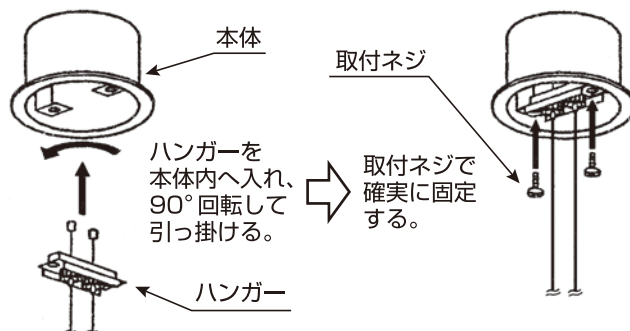


- ナットを増し締めし、本体をボルトに確実に取付ける。
(推奨締め付トルク値：1.5N・m)

不備があると、器具落下の原因となります。

5. ハンガーの取付け

- 取付ネジにてハンガーを確実に取付ける。
(推奨締め付トルク値：1.2N・m)



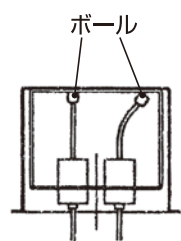
不備があると、器具落下の原因となります。

6. ワイヤーの長さ調整

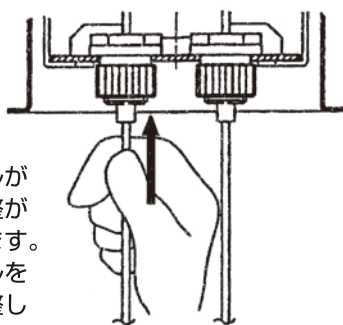
- 照明器具を吊下げる高さになるまで、ワイヤーの長さをおおまかに調整する。(推奨ワイヤー長さ：400~1000mm)
- ※器具吊下げ後、再度長さや傾きの微調整を行ってください。

<ワイヤーを短くする場合>

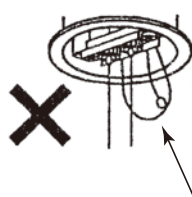
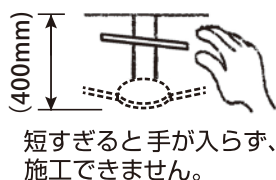
- ワイヤーをつまんで押し上げる。
(左右均等に行ってください。)
- ワイヤーは本体内に納めてください。



※ワイヤー先端のボールが本体内部あたり、調整が固くなることがあります。この場合、奥のボールを指でずらしてから調整してください。



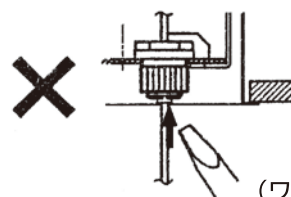
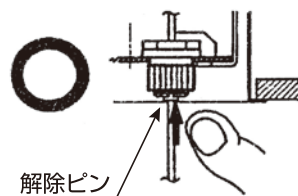
※ワイヤー長さは、極端に短くしないでください。
施工できなくなります。



※ワイヤーがはみ出す場合は、一旦伸ばしてから調整してください。

<ワイヤーを伸ばす場合>

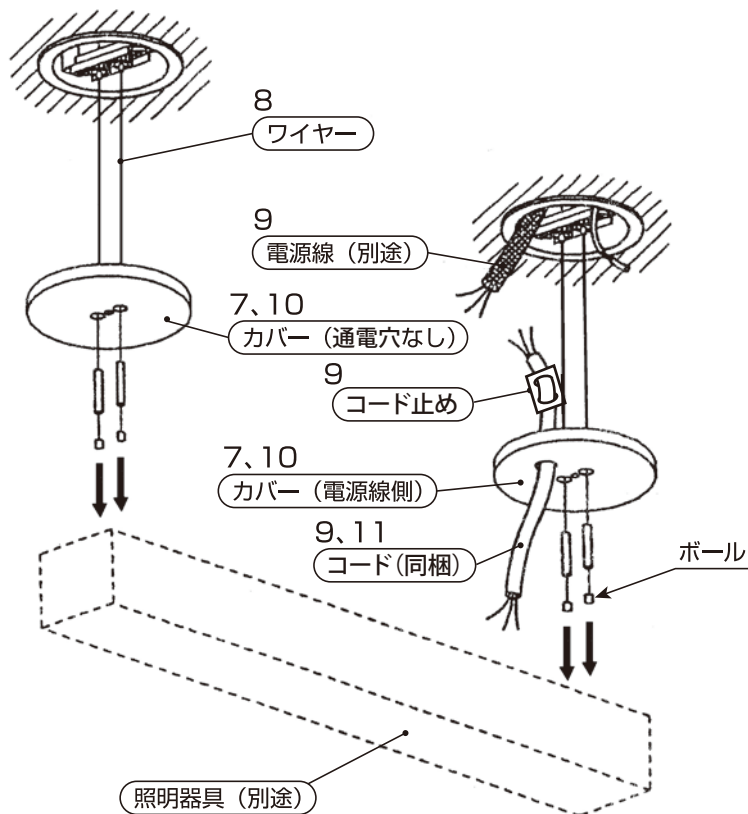
- 調整具の解除ピンを指で押し、保持を緩めてワイヤーを引き出す。



不備があると、器具落下の原因となります。

(この続きの施工手順は、次ページをご覧ください。)

各部のなまえと取付方法（続き）

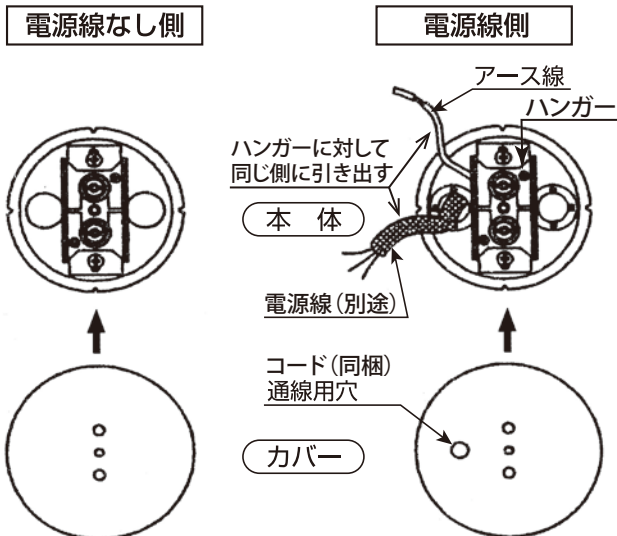


7. 照明器具の取付け

- ・カバーにワイヤーを通す。

※カバーと本体の組合せは下図をご参照ください。

- ① 電源線（別途）の出ている本体には、電源線側カバーを組合わせてください。
- ② カバーのコード（同梱）通線用穴位置は、本体側の電源線（別途）の位置と合わせてください。



- ・ワイヤー先端のボールを照明器具の取付金具に引っ掛け、固定する。

※詳細は照明器具の説明書をご参照ください。

8. 吊り高さと傾きの微調整

- ・吊り高さを再度調整し、照明器具を水平にしてください。（調整方法は、「6. ワイヤーの長さの調整」を参照）
- ・照明器具の傾きやワイヤーのたるみが残る場合は、左図のようにアジャスターを回して微調整を行ってください。

※アジャスターは1回転で約1mmワイヤーが上下します。調整範囲は約5mmです。これ以上調整する場合は、通常の長さ調整を行った後に微調整してください。

※出荷状態では、上げる方向にしか回せません。ご注意ください。

※照明器具の重さがワイヤーにかかってくると、アジャスターの回転が硬くなることがあります。このような場合は、左図のように器具端を少し持ち上げて調整してください。

不備があると、器具落下の原因となります。

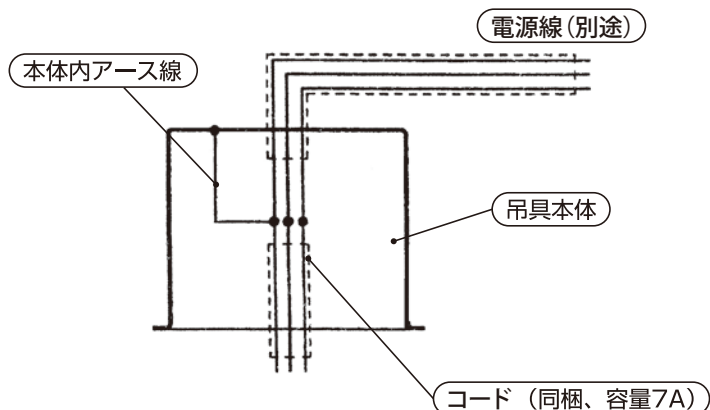
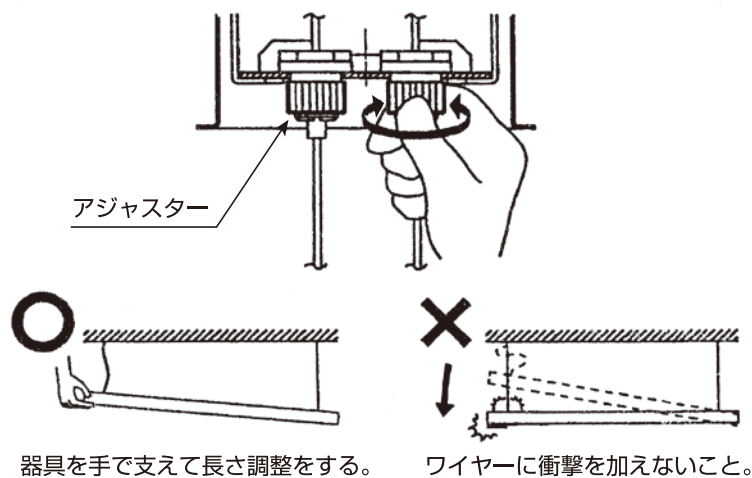
器具を連結した場合

吊具高さ調整時は必ず器具を手で支えた状態で、1～2cmずつ均等に行ってください。

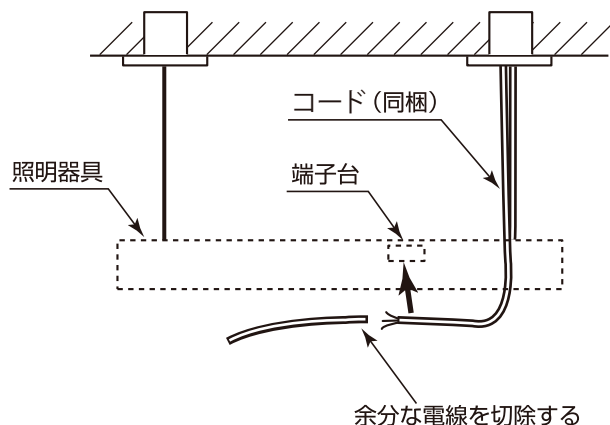
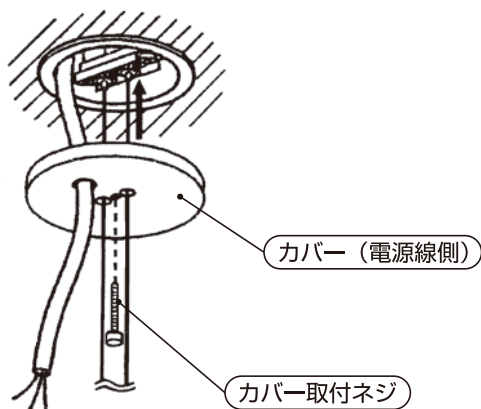
不備があると、器具の変形・落下の原因となります。

9. コードの接続

- ・電源線（別途）とコード（同梱）を接続する。（左図をご参照ください。）
- ※コード止め側を電源線に接続する。
- ・D種（第3種）設置工事が必要です。
- ・接続部は絶縁処理を施し、本体の中に確実に収納する。
- ※本体内部での送り配線はできません。コード（同梱）の容量（7A）を超えて使用する場合は、予め天井裏で分岐配線を行ってください。
- 不備があると、感電・火災の原因となります。（この続きの施工手順は、次ページをご覧ください。）

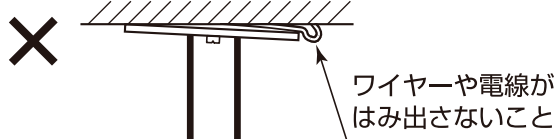


各部のなまえと取付方法 (続き)



10. カバーの取付け

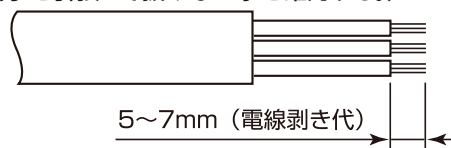
- 電線、ワイヤーが本体からはみ出ていないことを確認する。
- カバーを天井面に押し当て、取付ネジで固定する。
(必ず工具を用いて増し締めしてください。)



不備があると、器具落下・火災の原因となります。

11. コード(同梱)の長さ調整と棒端子かしめ (FYY80105のみ)

- コード(同梱)を器具背面より通し、端子台付近まで引き回す。
- コード(同梱)が余った場合は、切断してから先端に同梱の棒端子をかしめる。
(棒端子を引張って抜けない事を確認する。)



※照明器具への電線接続や送り配線方法は、
照明器具の説明書をご参照ください。

12. 電源線・アース線の接続

- 電源線・器具口出し線・アース線を接続する。
- 接続部の絶縁を確実にを行う。
- D種(第3種)接地工事が必要
- 口出し線の接続は、電気設備技術基準の省令第7条、および同解釈第12条にしたがうこと。
- 口出し線の線種：ビニル絶縁電線

電源線の線径：0.75 mm² アース線の線径：0.75 mm²

吊具の取り外し手順

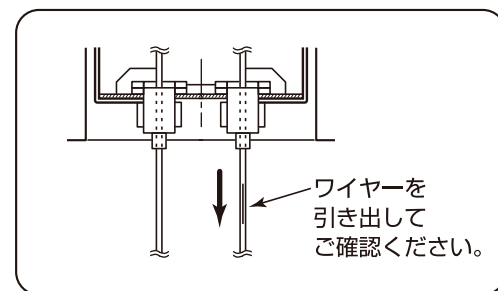
●吊具の交換等で取り外しを行う際は、下記の手順で行ってください。また、作業は必ず2人で行ってください。

1. 照明器具の電源を切る。
2. 照明器具の端子台からコード(同梱)を外す。
 - 本体が不意に揺れないよう、器具を固定して作業を行う。
3. 照明器具からワイヤーを外す。
 - 照明器具が落下しないよう、一人が支えた状態で作業を行う。
4. 吊具のカバーを外す。
5. ワイヤーを全て引き出す。
 - ワイヤーが本体に収納されたままではハンガーが回転せず、取り外しできないことがあります。
6. ハンガーを外す。
 - 本体内のワイヤーが不意に跳ねることがあります。本体開口部を手で押さえながら、ゆっくり作業してください。
7. コード(同梱)と電源線(別途)の接続を外す。
8. 本体を外す。

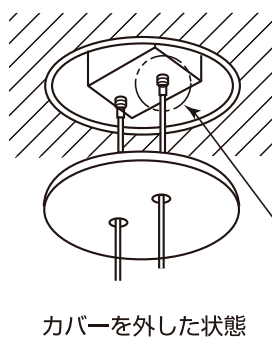
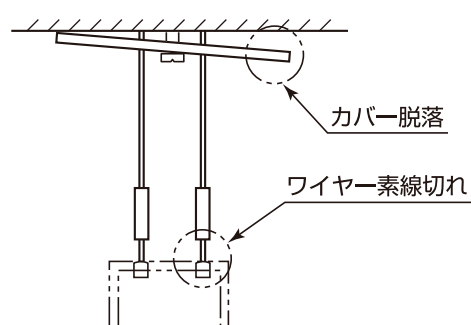
安全に関するご注意

警告

- 吊具を改造しない。落下・感電・火災の原因となります。
- 万一、煙が出たり、変な臭いがするなどの異常が発生した場合、すぐに電源を切り、工事店に修理を依頼する。
そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。
- ワイヤーが切れたままで使用しない。落下の原因となります。
必ず吊具を交換してください。
- 地震・大きな振動または衝撃が器具に加わった場合には、各部に異常がないか確認する。(下図参照)
異常があるまま使用すると、落下の原因となります。



<確認ポイント>



注意

- ランプ交換やお手入れの際は、必ず電源を切ってください。感電の原因となります。
- 3年に1回は、工事店等の専門家による点検を受けてください。
点検せずに長期間使い続けると、まれに感電・火災などに至る場合があります。

お手入れ **注意** (必ず電源を切ってください。感電の原因となります。)

- ・吊具の清掃について……………
- ・水または中性洗剤を用いて、汚れた部分を軽く拭き取ってください。
- ・シンナー、ベンジン、アルカリ系洗剤で拭かないでください。
変色・変質、強度低下による破損の原因となります。